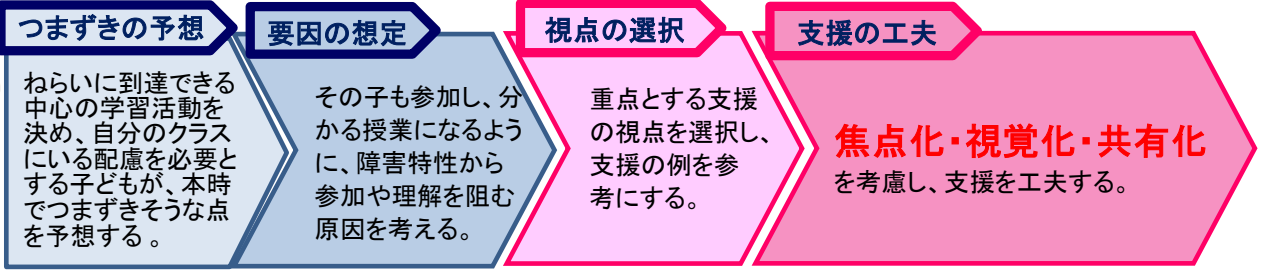


ユニバーサルデザインの授業づくりシートー「12の視点」を基にー

～安心して主体的に参加し、分かる・できる授業を目指して～



| 参加を阻む障害特性 | 参加できるようにするための主な視点 | 理解を阻む障害特性 | 分かる・できる授業にするための主な視点 |
|--|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・状況理解の悪さ ・見通しのなさへの不安 ・関心のムラ ・不注意・多動 ・コミュニケーションの苦手さ ・二次的障害による意欲の低下 | <ul style="list-style-type: none"> 視点1 「教室環境Ⅰ(場の構造化)」 視点2 「教室環境Ⅱ(刺激量の調整)」 視点3 「1日の見通し」 視点4 「ルールの確立」 視点5 「学習の見通し」 視点6 「めあての明確化」 視点7 「集中・注目のさせ方」 視点8 「授業の組み立て」 <ul style="list-style-type: none"> ・活動のめりはり ・集中できる時間の考慮 視点10 「認め支え合う学級づくり」 視点11 「個人差へ「参加の促進」 視点12 「の配慮」「達成感・自尊感情」 | <ul style="list-style-type: none"> ・認知の偏り ・情報処理の違い ・複数並行作業の苦手さ ・曖昧なものへの弱さ ・学習スタイルの違い ・ワーキングメモリ(作業記憶)の少なさ ・理解のゆっくしさ | <ul style="list-style-type: none"> 視点8 「授業の組み立て」 <ul style="list-style-type: none"> ・付きたい力の明確化 ・ねらいに合わせたシンプルな構成 ・身体性の活用(動作化・作業化) ・ペア・グループ学習の活用 視点9 「分かりやすい説明」 <ul style="list-style-type: none"> ・視覚化 ・単純化 ・具体化 視点11・12 「個人差への配慮」 <ul style="list-style-type: none"> ・選択制 ・量や回数調整 ・個に合わせためあて ・補充学習 ・家庭との連携 |

| | 支援の視点 | 内容 | 支援の例 |
|---------|-----------------|--|--|
| 一斉指導として | 1 教室環境Ⅰ(場の構造化) | 子どもが迷わずに自発的に教室での作業に取り組める環境である。 | ○見ただけで分かるように、明瞭に表示する。 ○合理的にものを配置する。 |
| | 2 教室環境Ⅱ(刺激への配慮) | 集中しやすく、落ち着いて学習に取り組める環境である。 | ○目障りとなる視覚刺激がないようにする。 ○不要で不快な聴覚刺激がないようにする。 ○座席配慮をする。 |
| | 3 1日の見通し | 1日の日程や場所、時間等の見通しがもてるように、また、いつでも確認できるように視覚化している。 | ○「今日の予定」をいつも同じ場所に示す。 ○一目で分かるようにイラストを活用する。 ○今することが分かりやすくなるように、活動が終わったものから消していく。 |
| | 4 ルールの確立 | 教室のルールを事前に分かりやすく示し、不要なトラブルが起らないようにしている。 | ○教室前で集合して教室移動する。 ○声の大きさや発表・発言のルールを示す。 ○話の聞き方・グループ学習の仕方を示す。 ○トラブルが起きないように、子どもの特性に応じて約束事を決め、子どもも納得している。 |
| | 5 学習の見通し | 1時間の流れや活動の内容・方法・時間等の見通しがもてるように、また、いつでも確認できるように視覚化している。 | ○めあての板書をする。 ○「本時の予定」を示し、終わったものから消していく。 ○既習事項の掲示をする。 ○一定の流れで進む授業スタイルにする。 |

| | | 支援の視点 | 内容 | 支援の例 | |
|---------------------------------|---------------|-------|------------------|--|--|
| 一 斉 指 導 と し て | 授業中において配慮すること | 6 | めあての明確化 | 子ども自身が、「考えたい」「してみたい」と思いうような明確な学習のめあてをもっており、それが授業の終末まで意識できるようにしている。 | ○子どもと一緒にめあてをつくる。 ○子どもがしてみたいと思えるように導入を工夫し、めあてを立てる。 ○授業の途中に、めあてに向けての進行状況を振り返る。 |
| | | 7 | 集中・注目のさせ方 | 聞き漏らしをなくし学習に集中させるために、「聞く構え」を育てる手立てがある。 | ○注意喚起の合図が明確である。 ○ルール化している。 ○話を聞こうと自ら注意を向けた時を逃さず褒めている。 |
| | | 8 | 授業の組み立て | 教材から子どもの意識が離れないように、集中しやすい多様な学習活動を工夫している。 | ○本時に身に付けさせたい力に焦点化し、それに直結した活動にする。 ○活動にめりはりがある。 ○体験や作業を通して思考が深まるようにしている。 ○自力解決→グループ学習→一斉学習の形を取り入れ、一人あるいは友達と学び考え合う場がある。 ○早く進む子どもを考慮した活動がある。 |
| | | 9 | 分かりやすい説明 | 指示・説明は、言葉だけでなく視覚的にも提示し、内容を明確に示している。 | ○色使いを工夫した板書、絵や写真の掲示、ジェスチャー等の視覚的・操作的手がかりが多くある。 ○「1点目…、2点目…」のような列挙法で話す。 ○具体的に話す。(×しっかり ×きちんと) ○手順を説明する時は、視覚的にも示しながら話す。 ○何をすればいいか、明確に分かる発問をする。 ○ワークシートと板書が同じになるようにしている。 ○子どもの発言を分類して、構造的に板書する。 |
| | | 10 | 認め支え合う学級づくり | 全ての児童生徒が自分の考えを安心して話し、学び合っって授業に参加できるような教師の声かけや場づくりがある。 | ○学び合ったり、助け合ったりする活動が設定されている。 ○友達や教師から認められる時間や空間を設定する。 |
| 個別指導として | | 11 | 個人差への配慮 参加の促進 | できそうだと思うように、個人差に合う教材教具の提示や、学びやすい環境を工夫している。負担を軽減し、自信をもたせている。 | ○多様な解決方法の中から選んで学習できる。 ○個別の補助教材や教具を工夫する。 ○スモールステップ化している。 ○興味のあるものを問題やワークシートに活用する。 ○量や回数を、個に合わせて調整する。 ○手がかりを示したり、ペア学習を行ったりして解法の見通しをもたせてから、自力解決ができるようにする。 ○特別扱いと思われないように配慮している。 ○事前に補充学習をしておく。 |
| | | 12 | 達成感・自尊感情 | 個人差に応じて評価の内容、方法、基準等を工夫し、全ての児童生徒が達成感や満足感を味わえるようにしている。 | ○個に応じためあてを設定する。 ○全体説明の後、理解の状況を個別に確認する。 ○個が生きる場を設定している。 ○個々の伸びを評価する。 ○事後に補充学習をし、達成感をもたせる。 |

よりUDの授業に近づくために、見落としがちな次のポイントに気を付けましょう。

焦点化

- ・付けたい力に合わせたシンプルな流れになっていますか？
- ・子どもが、明確に「〇〇ができた・分かった」と思える流れになっていますか？

視覚化

- ・言葉だけで長く説明していませんか？
- ・具体物による操作活動や、体験的活動、思考の足跡の「見える化」を取り入れて、考えやすくしていますか？

共有化

- ・一部の子どもの反応で、授業を進めていませんか？(学習の全ての段階において)

